様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	情報通信エレクトロニクス工学科	夜・通信	0	0	21	21	7	
	制御情報システム工学科	夜・通信			10	10	7	
	人間情報システム工学科	夜・通信			16	16	7	
	機械知能システム工学科	夜・通信			10	10	7	
	建築社会デザイン工学科	夜・通信			12	12	7	
	生物化学システム工学科	夜・通信			18	18	7	
	専攻科電子情報システム工学専攻	夜・通信	0	0	22	22	7	
	専攻科生産システム工学専攻	夜・通信			21	21	7	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校の公式 HP 上で、ＷＥＢシラバスにて公表
https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=47

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由） なし

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/kisoku/yakuin-20221016.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・副学長	2020 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	国際交流･海外展開情報システム
非常勤	東京大学教授	2022 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日	男女共同参画
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・授業計画(シラバス)の作成過程 教務委員会及び専攻科委員会（専攻部会）を通じて、前年度の 12 月の時期に、各科目担当教員に作成を依頼している。また、非常勤教員については、担当のホストプロフェッサー（サポート教員）を介して、次年度のシラバス作成を依頼している。 シラバスでは、高専機構統一の Web シラバスを利用しており、授業方法（講義、演習、実験、実習の別)、授業概要、年間スケジュールを記載している。成績評価については、科目ごとに到達目標を示し、成績評価方法・基準について明記している。 各担当教員のシラバスが作成された段階で、シラバスの内容等の相互チェック、教務委員会及び専攻科委員会（専攻部会）による点検を実施している。 ・授業計画(シラバス)の公表時期及び公表方法 教務委員会及び専攻科委員会（専攻部会）にて、最終確認後、前年度の３月中に本校のホームページ上で公表している。	
授業計画書の公表方法	本校の公式ＨＰ上で、Web シラバスにて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=47
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学習成果の評価に係る取り組みの概要）

＜本科＞

各科目については、シラバスに記載した評価基準及び方法を用いて、担当教員が成績評価を行っている。各科目の成績評価方法として採用されている試験、レポート等の評価結果は原則として学生に開示している。また、卒業論文については、学科単位で卒研発表、論文審査等を行い、評価シートを用いて、取得項目毎に複数教員で審査を行っている。最終的に総合評価を行い、単位認定などを学科会議で最終判定を行っている。

最終的な単位及び成績認定については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に基づき、教務委員会、専攻科委員会で確認したのち、企画運営会議（H30 年度までは運営会議）で認定している。

なお、各科目の成績については、前期中間、前期末、後期中間、学年末に自己点検シート、成績通知書によって学生本人、保護者にも成績評価結果について確認を行ってもらっている。また、前期中間、前期末、後期中間、学年末の各時点で、学生の履修状況及び学修成果状況について教務委員会及び所属学科で確認し、学修指導に反映させている。

＜専攻科＞

各科目については、シラバスに記載した評価基準及び方法を用いて、担当教員が成績評価を行っている。各科目の成績評価方法として採用されている試験、レポート等の評価結果は原則として学生に開示している。

また、専攻科の特別研究については、学生に毎月研究実施報告書を提出してもらい、年度末には各専攻の系単位で研究発表を行い、論文と特別研究評価報告書に基づき主査、副査が評価し、専攻科委員会（専攻部会）で確認を行っている。

最終的な単位及び成績認定については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」又は「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」に基づき、専攻科委員会（専攻部会）で確認した後、企画運営会議（H30 年度までは運営会議）で認定している。

なお、各科目の成績については、前期末、学年末に、成績表を学生に配付し、成績評価結果について確認を行ってもらっている。また、前期末、学年末の各時点で、学生の履修状況及び学修成果状況について、専攻科委員会（専攻部会）で確認し、学修指導に反映させている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

<table>
<tr><td colspan="2">（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

＜本科＞
成績評価の順位については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。
また、成績の分布状況の把握については、前期中間、前期末、後期中間、学年末の各期において成績順位を算定し、担任、教務委員会、各学科で確認している。また、学生及び保護者に成績通知書を送付し、中間時点での成績及び最終成績について確認できるようにしている。
なお、両キャンパスの指標については、以下のとおり。

【熊本キャンパス・八代キャンパス共通】
成績評価の順位については、次の算定式によるＧＰＡポイントで決定する。
算定式：｛（Ｓ評価科目の単位数×４点）＋（Ａ評価科目の単位数×３点）＋（Ｂ評価科目の単位数×２点）＋（Ｃ評価科目の単位数×１点）｝÷（履修科目の合計単位数）

＜専攻科＞
成績評価の順位については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに専攻科学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。
また、成績の分布状況の把握については、前期末、学年末の各期において成績順位を算定し、担任、専攻科委員会（専攻部会）及び各学科で確認している。また、学生には成績表を配付し、中間時点での成績及び最終成績について確認できるようにしている。
なお、両キャンパスの指標については、以下のとおり。

【熊本キャンパス・八代キャンパス共通】
成績評価の順位については、次の算定式によるＧＰＡポイントで決定する。
算定式：｛（Ｓ評価科目の単位数×４点）＋（Ａ評価科目の単位数×３点）＋（Ｂ評価科目の単位数×２点）＋（Ｃ評価科目の単位数×１点）｝÷（履修科目の合計単位数）</td></tr>
<tr><td>客観的な指標の
算出方法の公表方法</td><td>本科の学生便覧及び専攻科の学生便覧に掲載し、本校のＨＰ上で公表。
https://kumamoto-nct.ac.jp/shien/handbook.html
なお、該当ページは以下のとおり。
【本科】
熊本キャンパス：P.66（熊本キャンパス学生便覧）
八代キャンパス：P.49（八代キャンパス学生便覧）
【専攻科】
熊本キャンパス：P.54（熊本キャンパス専攻科学生便覧）
八代キャンパス：P.29（八代キャンパス専攻科学生便覧）</td></tr>
<tr><td colspan="2">４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</td></tr>
</table>

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

＜本科＞
　卒業の認定については、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。
　また、上記規則に基づく認定の実施に関しては、各キャンパスの規定に基づき厳格に実施している。

＜専攻科＞
　修了の認定については、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修方法等に関する規則」の中で規定しており、キャンパス（熊本キャンパス及び八代キャンパス）ごとに専攻科学生便覧に掲載し、本校のホームページ上に公開している。
　また、上記規則に基づく認定の実施に関しては、各キャンパスの規定に基づき厳格に実施している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本科の学生便覧及び専攻科の学生便覧に掲載し、本校のＨＰ上で公表。 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school/policies.html ディプロマ・ポリシーは、以下に掲載。 ＜情報通信エレクトロニクス工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_01-TE_20230120.pdf ＜制御情報システム工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_02-CI_20230120.pdf ＜人間情報システム工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_03-HI_20230120.pdf ＜機械知能システム工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_04-MI_20230120.pdf ＜建築社会デザイン工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_05-AC_20230120.pdf ＜生物化学システム工学科＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_06-BC_20230120.pdf ＜専攻科電子情報システム工学専攻＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/threepolicies_07-AE_20230417.pdf ＜専攻科生産システム工学専攻＞ https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_08-AP_20230120.pdf

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	熊本高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR3.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R3jigyouhoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kansaR3.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画　対象年度：令和５年度）
公表方法： https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r5-keikaku.pdf
中長期計画（名称：独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画　対象年度：平成 31 年（2019 年）４月１日から令和６年（2024 年）３月 31 日まで）
公表方法： https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/4th-keikaku.pdf

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/openinfo/jikohyoka.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　情報通信エレクトロニクス工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_01-TE_20230120.pdf　）
（概要） 情報通信エレクトロニクス工学科は、情報通信とエレクトロニクスの専門技術とともに両者を融合した技術を身に付け、情報通信とエレクトロニクスに対する高度化、多様化したニーズに応えられる技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_01-TE_20230120.pdf　）
（概要） 情報通信エレクトロニクス工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、 国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 学習・教育到達目標 （Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける 1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること 1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること 1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること （Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける 2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること 2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること （Ｄ３）情報通信工学及びエレクトロニクス分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける 3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること 3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること 3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること 3-4：基礎的な実験技術を身に付けること （Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける 4-1：広い視野で物事を考えることができること 4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること 4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること 4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること （Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける 5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること 5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること

（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_01-TE_20230120.pdf ）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の実験演習系科目や卒業研究で身に付ける。国語系科目、外国語系科目、人文社会系科目、専門科目は主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで、単位認定される。リベラルアーツ系科目、実験演習系科目及び卒業研究は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで、単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得科目数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム
基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］
専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

［キャリア教育］
社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

情報通信エレクトロニクス工学科のカリキュラム

(1) 情報通信エレクトロニクス工学科のカリキュラムの特徴
ICT(情報通信工学)及びエレクトロニクス(電子工学)における知識を習得できるよう、基本的技術及び工学への応用技術･理論を理解するための座学系科目を開設している。これらの専門知識を活用するスキル・能力を習得できるよう、実験・実習系科目を開設している。社会の課題に対して好奇心と探求心を持ち、専門分野の知識を活かして主体的、創造的、継続的に協働して解決に取り組む能力を育むための科目を開設している。

(2) 専門知識の習得
ICT 及びエレクトロニクスの基礎を習得するために、基礎電気学、プログラミングなどの科目を開設している。更に、高度な専門知識習得のために、ICT 系の科目として、電磁波工学、信号伝送学、ネットワーク工学、プログラミング応用など、エレクトロニクス系の科目として、電子工学、半導体プロセスなどを開設している。

(3) 専門技能の習得
ICT 及びエレクトロニクスの専門知識を活用できるスキル・能力を習得するために、電子通信工学基礎、電子通信工学演習、電子通信工学実験などの実験・実習系科目を開設している。その他の講義科目においても、PC や各種ツールを積極的に活用して講義と一体化した実験・演習を取り入れている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
電子通信工学実験の中で、企業や地域及び自治体が抱えている課題を解決する PBL(課題解決型学習)を取り入れるとともに、リベラルアーツ実践や卒業研究などの科目を通して、好奇心と探求心を持って、専門分野の知識を活かして主体的、創造的、継続的に協働して問題解決に取り組む能力を育めるようにしている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_01-TE_20230120.pdf ）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像
科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人

科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜
在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜
数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

帰国生徒特別選抜
出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜
推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜
学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国語及び社会の 5 教科とする。なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜
帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。
なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像
科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人
情報通信工学及びエレクトロニクスにおける基礎力をを持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。
編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。
なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　制御情報システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_02-CI_20230120.pdf　）

（概要）

制御情報システム工学科は、電気・電子工学、情報工学、計算機工学及び計測・制御工学の基礎技術を身に付け、これを基盤として制御と情報の関連技術を融合し、ソフトウェアとハードウェアを統合した制御情報システムを実現できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_02-CI_20230120.pdf　）

（概要）

制御情報システム工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像(準学士課程)及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、育成する人材像(準学士課程)及び学科の教育上の目的に基づき、以下の能力を身につけ、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

学習・教育到達目標
（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
　1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
　1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること
　1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること
（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
　2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること
　2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること
（Ｄ３）電気・電子工学、情報工学、計算機工学及び計測・制御工学の各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
　3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること
　3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること
　3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること
　3-4：基礎的な実験技術を身に付けること
（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
　4-1：広い視野で物事を考えることができること
　4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること
　4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること

4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること
（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること
（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_02-CI_20230120.pdf ）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の演習系科目や卒業研究で身に付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム
基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］
専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアー

ツ系科目）を開講している。

［キャリア教育］
社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

制御情報システム工学科のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴
制御情報システム工学科では、まず専門技術修得の基礎となる基盤系科目(電気回路学、電気磁気学、計算機工学など)を学び、次に、ハードウェア系科目(組込みシステム設計、ハードウェア設計論など)、ソフトウェア系科目(画像処理、ソフトウェア設計論、AI 概論など)、制御系科目(制御工学、シーケンス制御など)を学ぶ。さらに、「制御」と「情報」関連技術を融合したシステムに関する科目(IoT/組込みシステム論など)へと学びを進める。

(2) 専門知識の習得
専門知識・理論を身に付けるために、(a)電子回路学・計算機工学・応用数学・応用物理(基盤系科目)、(b)オペレーティングシステム、信号処理、人間工学(ソフトウェア系科目)、(c)メカトロニクス工学(ハードウェア系科目)、(d)制御工学、計測工学(制御系科目)、(e)　生体システム工学(融合システム系科目)を開設している。

(3) 専門技能の習得
実験・実習科目を通して、実践的なソフトウェア技能(情報リテラシー・セキュリティ、C 言語・Python・Matlab などのプログラミング言語開発能力)、ハードウェア技能(回路作成、計測技術、3DCAD による設計、組み込み及びシーケンス制御、ハードウェア記述言語開発能力)及びそれらを融合するシステム開発技能の習得を図っている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
１年次から毎年数週間以上に亘るプロジェクト型グループ実験に取り組んでいる。1・2 年次には、工学基礎演習・実験などの短期グループ実験に、3-5 年次には、工学基礎実験にて半期に亘る長期プロジェクト実験に取り組む。併せて、リベラルアーツ基礎・実践では、分野横断的技能の向上を図っている。その集大成として 5 年次に卒業研究に取り組む。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_02-CI_20230120.pdf　）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜

学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国語及び社会の 5 教科とする。なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜

帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。
なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

電気・電子工学、情報工学、計算機工学など、制御情報システム工学における基礎力を持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。

編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。

なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　人間情報システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_03-HI_20230120.pdf　）

（概要）

人間情報システム工学科は、ソフトウェア・エレクトロニクス・ヒューマンウェアの技術を加味した情報工学を基本に、人の生活に役立つ情報システムづくりの基礎を身に付け、社会のニーズに応えられる感性豊かな技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_03-HI_20230120.pdf　）

（概要）

人間情報システム工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

学習・教育到達目標

（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
　1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
　1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること
　1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること

（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
　2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること
　2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること

（Ｄ３）ソフトウェア・エレクトロニクス・ヒューマンウェアの基礎となる数学・自然科学の基礎知識と技能及び人間情報システム工学における多様な専門分野の技術に関する知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
　3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること
　3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること
　3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること
　3-4：基礎的な実験技術を身に付けること

（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
　4-1：広い視野で物事を考えることができること

4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること
4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること
4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること
（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること
（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_03-HI_20230120.pdf ）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の演習系科目や卒業研究で身に付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム
基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］
専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアー

ツ系科目）を開講している。

［キャリア教育］
社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

人間情報システム工学科のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴
人間情報システム工学科は、プログラミングをはじめとしたコンピュータのシステム情報技術、自然や社会における多種多量な情報を扱う数理情報技術、電気及び情報通信の有効活用に関して基盤となる電気電子系分野に加え、人の生活に役立つ情報システムづくりの基盤となるヒューマン情報技術を複合的に学び、人間を取りまく環境をもっと豊かにする感性豊かな創造的情報システム技術者を育成できるカリキュラムとなっている。

(2) 専門知識の習得
情報工学系科目としてプログラミング、情報ネットワーク、組込みシステム、数値計算、計算機工学、システム工学、情報セキュリティ、データベース、人間環境工学系科目として人間環境工学、福祉工学、ヒューマン情報処理、画像・音処理、専門基盤科目として情報数学、情報理論、計算機工学、電気回路などの科目を開講している。

(3) 専門技能の習得
ものづくりや基礎的な実験技術の修得を目的として情報工学実験や情報工学基礎演習を開講している。ソフトウェア実験、ハードウェア実験及びヒューマン実験を通じて座学で学習した知識を実験や演習で実践し、情報システム技術者として必要な経験を積むことができるカリキュラム構成としている。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
主に、人間環境工学系科目で社会問題解決のために応用、展開できるようなカリキュラムを構成している。人間環境工学では、環境保全対策についての知見を習得し、福祉工学では、工学技術を福祉及び教育に応用した技術を習得し、ヒューマン情報処理では、利用者にやさしい技術開発や製品開発向上のための評価法について習得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_03-HI_20230120.pdf　）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜

学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国語及び社会の 5 教科とする。なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜

帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。
なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

機械工学、電気・電子工学など機械知能システム工学科における基礎力を持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。

編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。

なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　機械知能システム工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_04-MI_20230120.pdf　）

（概要）

機械知能システム工学科は、「機械工学」を基本として、「電気・電子・制御・ 情報・通信システム」等の幅広い技術分野にも対応しながら、様々な生産活動の場において総合エンジニアとして「モノづくり」に貢献できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_04-MI_20230120.pdf　）

（概要）

機械知能システム工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

学習・教育到達目標

（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
- 1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
- 1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること
- 1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること

（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
- 2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること
- 2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること

（Ｄ３）機械及び電気電子分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
- 3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること
- 3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること
- 3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること

3-4：基礎的な実験技術を身に付けること
（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
4-1：広い視野で物事を考えることができること
4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること
4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること
4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること
（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること
（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_04-MI_20230120.pdf ）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の演習系科目や卒業研究で身に付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム
基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］
専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講し

ている。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

［キャリア教育］
社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

機械知能システム工学科のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴
私たちが日常使っている家電製品から、自動車・航空機、さらには人工衛星まで、現代の機械類の多くは、多数の機械部品とそれを正確にコントロールする電子制御部品の組み合わせで出来ている。機械知能システム工学科は、「機械工学」を基本として、「電気・電子・制御・情報・通信システム」等の幅広い技術分野にも対応しながら、様々な生産活動の場において総合エンジニアとして「モノづくり」に貢献できる技術者の育成を目的とする。

(2) 専門知識の習得
授業では、設計製造のための基盤である機械設計製図、材料力学や工作・加工法から、機械システム等の基本となる熱や流体の力学や機械力学、エネルギー工学、計算力学、さらには、情報処理系科目や電気電子回路、計測工学、電気磁気学、メカトロニクスなど、現代の複合的な科学技術に沿って多様な専門科目を学ぶ。

(3) 専門技能の習得
ものづくり実習で機械加工や工作方法を、製図基礎や機械設計製図で、3DCAD を用いた 3 次元モデリングによる実際の製品設計での方法論の理解と習得を目指す。また、4 年の課題研究、5 年の卒業研究では、実験や開発を行う過程で、様々な実験装置の扱いや測定、分析の手法について学ぶ。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
1、2 年生のものづくり実習 I、II では,グループでの作業を通して協働力を、リベラルアーツ実践、3 年の機械知能システム工学実験では、課題設定・達成力、問題発見・解決力の基礎を養い、4 年の課題研究、5 年の卒業研究で段階的にこれらの能力をさらに高いレベルまで育てるカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_04-MI_20230120.pdf　　）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー
本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これら

を活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜

数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜

学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国語及び社会の 5 教科とする。

なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜

帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。

なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像
科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人
機械工学、電気・電子工学など機械知能システム工学科における基礎力を持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。
編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。
なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　建築社会デザイン工学科

教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_05-AC_20230120.pdf　　）

（概要）

建築社会デザイン工学科は、建築学の専門基礎技術に、土木工学、情報通信技術、計測技術を加え、自然環境、防災、文化、歴史に配慮し持続可能な社会の実現を目指す、建設構造物の設計・施工、地域づくりやまちづくりに貢献できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_05-AC_20230120.pdf　　）

（概要）

建築社会デザイン工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

学習・教育到達目標
（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること
1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること
（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること
2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること

（Ｄ３）建築及び土木分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること
3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること
3-4：基礎的な実験技術を身に付けること
（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
4-1：広い視野で物事を考えることができること
4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること
4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること
4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること
（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること
（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_05-AC_20230120.pdf　）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の演習系科目や卒業研究で身に付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム
基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］
専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。
［キャリア教育］
社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

建築社会デザイン工学科のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴
建築学を中心に、土木工学、専門に関わる ICT 技術、英語、数学、物理の科目を開講している。
自然環境、防災、文化と歴史、暮らしに配慮でき、持続可能な社会の実現に貢献できる視野を育てる科目を開講している。
専門知識を検証して身につけると同時に、グループワークにより協調性を育成する実験・演習科目を開講している。
地域でのフィールドワーク、協働、プレゼンテーションを通じ、実践的に創造するプロジェクト科目を開講している。
建築士、測量士補の取得条件を満たすカリキュラムを構成している。

(2) 専門知識の習得
専門知識を習得する科目として、以下を開講している。
・建設材料、構造力学、施工法といった構造系の科目
・都市計画、建築計画、建築史といった計画系の科目
・都市環境工学、建築環境工学、建築設備といった環境系の科目
・土質力学、水理学、防災工学といった土木系の科目
・情報基礎、応用数学、技術英語といった専門基礎科目

(3) 専門技能の習得
基礎製図、創造演習、CAD 演習により製図、模型制作の技術を習得する。
測量学及び同実習、地形情報処理により計測技術を習得する。
建築社会工学実験により材料、構造、環境の実験、データ収集・分析の技術を習得する。
設計製図、建築設計演習により建築設計技術を習得する。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

実験・演習科目では、グループワークにより協働力を習得する。
建築設計演習では、フィールドワークによる特性や問題の発見力、他者の思いを汲む力、創造的な解決力、プレゼンテーション力を実践的に習得する。
実践プロジェクト、課題研究、卒業研究では、課題設定やその解決力、それに伴う自己管理、論理的思考などを総合的に習得する。
進路セミナーやインターンシップでは、キャリアデザインを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_05-AC_20230120.pdf　　）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像
科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜
在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。
学力選抜
数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。
帰国生徒特別選抜
出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法
推薦選抜
推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。
学力選抜
学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国語及び社会の５教科と

する。
なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜

帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。
なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人
機械工学、電気・電子工学など機械知能システム工学科における基礎力を持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。
編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。
なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　生物化学システム工学科
教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_06-BC_20230120.pdf　　）
（概要） 生物化学システム工学科は、生物科学と化学の専門基礎技術に情報電子技術を加え、生物の持つ様々な機能を工学的に応用するバイオ技術を駆使して、医薬医療・食品・化学等の産業分野で展開されている「先進的で高度なモノづくり」に貢献できる実践的なバイオ・ケミカル技術者の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_06-BC_20230120.pdf　　）

（概要）

生物化学システム工学科では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（準学士課程）及び学科の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、人文社会系科目、理工系基礎科目、理工系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の授業を履修して卒業に必要な単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

学習・教育到達目標

（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
1-2：日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめること
1-3：自分の考えを簡潔な英語で表現できること

（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
2-1：ICT 技術に関する基礎的技術を身に付けること
2-2：種々の情報を分析する技術を身に付けること

（Ｄ３）生物及び化学における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
3-1：工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身に付けること
3-2：多様な専門分野の関連性を理解することができること
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること
3-4：基礎的な実験技術を身に付けること

（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
4-1：広い視野で物事を考えることができること
4-2：日本と世界との関わりに関心を持つことができること
4-3：社会参加のための、人間的基礎力を身に付けること
4-4：グループでの活動に参加し、その中で協調して役割を果たせること

（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5-1：技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できること
5-2：社会における倫理的な問題を認識することができること

（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術を身に付け、社会との関連を理解できること
6-3：主体的に継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_06-BC_20230120.pdf ）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、一般科目と専門科目を入学時から卒業までバランスよく楔形に開設している。D1 は、主に一般科目の国語系科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に一般科目及び専門科目の情報系科目で身に付ける。D3 は、一般科目での理系科目を基礎として専門科目で身に付ける。D4 は、主に一般科目の人文・社会系科目及びリベラルアーツ系科目、専門科目の実験実習系科目で身に付ける。D5 は、一般科目の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に一般科目のリベラルアーツ系科目及び専門科目の演習系科目や卒業研究で身に

付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行われ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
卒業認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、一般科目、専門科目及びその合計について、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

学科共通のカリキュラム

基礎的な知識・能力、各専門分野における知識・能力及び実践的な力を育成するために、分野共通科目、各専門科目を開設している。専門科目は、入学時から少しずつ学習内容が充実する楔形に配置している。
主体的・継続的に学習する力を育成するため、課題等に取り組む時間を含めた学習内容の設計を行っている。

［共通科目］

専門工学の基礎となる数学・自然科学科目を開講している。
知・徳・体の調和した人間性・社会性・協調性及び倫理観の育成のために、人文・社会系科目及び総合科目を開講している。
グローバル・エンジニアとして活躍するための語学、コミュニケーション科目を開講している。
問題解決に向けて主体的、創造的に取り組むための能力を開発するために、思考力、応用力、チームワークやリーダーシップなどの分野横断的能力を開発する科目（リベラルアーツ系科目）を開講している。

［キャリア教育］

社会に貢献できる技術者を目指すとともに、自分自身の生き方を設計、実現するために必要な学びを行うための科目を開設している。
入学から卒業に向け、各段階のキャリアプランを自ら考え、設計するための学習機会を設けている。

生物化学システム工学科のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴

生物化学システム工学科は、生物科学と化学の専門基礎技術に情報電子技術を加え、生物の持つ様々な機能を工学的に応用するバイオ技術を駆使して、医薬医療・食品・化学等の産業分野で展開されている「先進的で高度なモノづくり」に貢献できる ICT にも強い実践的バイオ・ケミカル技術者等の育成を目的とする。低学年から専門科目を配置し、専門理論と実験科目を通じて一貫した専門技術教育を行い、研究力総合力の強化を図る。

(2) 専門知識の習得

生物科学・化学を基盤とした専門知識、理論の習得を目的とし、生化学、細胞生物学、物理化学、有機化学、分析化学などを学ぶ。工学の基礎並びにバイオ技術を広く修得することを目的とし、発酵工学、遺伝子工学、化学工学、環境科学などを学ぶ。

専門分野へつながる ICT の基礎及び応用技術の修得を目的とし、プログラミング入門、応用情報処理、生命情報学、電気電子工学などを学ぶ。

(3) 専門技能の習得
低学年から段階的に設定された、生物化学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び安全教育を通して微生物培養、滅菌・無菌操作、遺伝子操作、化学合成、反応制御、化学分析、物質精製、データ解析などの幅広いバイオ技術を習得する。また、４年の課題研究、５年の卒業研究では、それぞれの研究テーマに沿った実験、分析に取り組み、高度な専門技術の習得及び定着を図る。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得
主体的かつ創造的に課題の解決に取り組むことができる実践的な能力の習得を目的とし、課題の設定、取り組みの計画、成果の検証及びプレゼンテーションを学生自身が教員と連携して進める科目として、実践プロジェクト、インターンシップ、課題研究、卒業研究を開講している。実験実習は、基本的にグループ作業を行い、協力しながら課題に取り組む姿勢を身に付けることも目的としている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_06-BC_20230120.pdf　　）

（概要）

準学士課程（本科）のアドミッション・ポリシー
本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次の通りとする。求める学生像に示された意欲、学力および適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像
科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針
入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び帰国生徒特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜
在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本学への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。
学力選抜
数学及び理科の科目に重点をおき、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。
帰国生徒特別選抜

出願資格及び要件を満たす人で、理科、英語、数学の科目及び面接により、本学での勉学に必要な素養と基礎学力を備えた人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜

学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学、国及び社会の 5 教科とする。なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

帰国生徒特別選抜

帰国生徒特別選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記での検査で、理科、英語、数学の 3 教科とする。なお、数学と理科は他の教科の 1.5 倍の配点とする。

4 年次編入のアドミッション・ポリシー

本校が 4 年次への編入で求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次の通りとする。求める学生像に示された意欲、学力および適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

科学や技術に関心を持ち、新しいものの創造に興味を持っている人
科学技術を学ぶのに必要な基礎学力を持っている人
コミュニケーションの基礎が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人
機械工学、電気・電子工学など機械知能システム工学科における基礎力を持っている人

入学者選抜の基本方針

本校の学習・教育目標を達成する資質を有し、本校の専門学科での勉学に必要な素養及び基礎学力を備えた人を選抜する。
編入学生の選抜は、学力検査の成績及び面接の総合判定により行う。
なお、志願者が募集人員内であっても、選考基準に満たない場合は、不合格となることがある。

学部等名　専攻科電子情報システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/threepolicies_07-AE_20230417.pdf　）

（概要）

電子情報システム工学専攻は、電子情報技術及び応用技術の高度化・グローバル化に対応して、電子情報系の専門知識・技術とコミュニケーション力を身に付け、複合領域にも対応できる幅広い視野と柔軟な創造力を備え、かつ健全な精神を持った広く産業の発展に貢献し、国際的にも活躍できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/threepolicies_07-AE_20230417.pdf　）

（概要）

電子情報システム工学専攻では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像(学士課程)及び専攻の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、総合基盤科目、電子情報系基盤科目、電子情報系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

電子・情報技術応用工学コース

（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
- 1-1：技術者として、分かりやすいきちんとした日本語での表現、技術報告書の作成、プレゼンテーションなどができること
- 1-2：英語による基本的な表現（英文読解、英作文、英会話）ができること
- 1-3：技術者としての英語のコミュニケーション能力を身に付けること

（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
- 2-1：コンピュータのハードウェアに関する基本的な働きを理解し、ＯＳやプログラミング言語に関する基礎的な処理ができること
- 2-2：工学的な課題について、コンピュータを応用して解決することができること

（Ｄ３）電子情報分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
- 3-1：数学、物理などの基礎的な知識・能力を身に付け、それを工学の分野で利用できること
- 3-2：電気磁気学や電子回路などの電子・情報系専門基礎科目の知識・能力を身に付けること
- 3-3：基本的な測定機器の取り扱い、実験技術を身に付けること
- 3-4：通信技術・電子技術・制御技術・情報技術などの中から、一分野の専門応用技術を身に付けること
- 3-5：人の行動・感性を工学に生かす技術を身に付けること
- 3-6：与えられた課題について、問題解決の過程を通じてデザイン能力を身に付けること

（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
- 4-1：諸外国の言語を学び各国の文化、価値観などに触れるとともに、社会の成立に不可欠な諸条件の基礎的知識を習得することにより、多面的に物事を考え価値観の異なる他者との共存ができる素養を身に付けること
- 4-2：スポーツやグループワークを通して協力・連携の意識を育み、社会性・協調性・チームワーク力を身に付けること

（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
- 5：技術が社会及び環境に及ぼす影響、技術開発が人類社会に与える倫理的な問題について理解すること

（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける

6-1：研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察などの一連の技術開発手順を学習し、創造性を身に付けること
6-2：実験や研究途上で生じた新たな問題点を複眼的視点から解決し、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身に付けること
6-3：知的探求心を持ち、継続的に学習する習慣を身に付けること
6-4：企業実習、校内での実習を通じ、与えられた課題に対する実践的な能力を身に付けること

電子情報技術専修コース
（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力を身に付ける
1-1：英語による基本的な表現（英文読解、英作文、英会話）ができること
1-2：技術者としての英語のコミュニケーション能力を身に付けること
1-3：技術者としての基本的な日本語の表現能力（報告書作成、プレゼンテーショ）を身に付けること
（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
2-1：電子情報・制御情報に関する一分野の専門応用技術を身に付けること
2-2：コンピュータ技術を知的情報処理技術に高め、専門分野の課題について応用し解決することができること
（Ｄ３）電子情報分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力、さらに、複眼的な視点から問題を解決する能力を身に付ける
3-1：研究計画の立案、研究の進め方、結果の整理・考察など一連の技術開発手段を学習し、創造性を身に付けること
3-2：人の行動・感性を工学に生かす技術を身に付けること
3-3：知的探求心を持って研究・実習活動に取り組み、電子・情報技術を工学的産業技術に活用する能力を身に付けること
3-4：自然科学・社会科学の基礎的な知識・能力を身に付け、工学の分野で利用できること
（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
4：豊かな人間性を持ち、社会性・協調性・チームワーク力を身に付けること
（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付ける
5：技術者として必要な起業力、技術の動向、倫理的問題などについて、基礎知識を習得すること
（Ｄ６）知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組む能力を身に付ける
6：実験や研究途上で生じた新たな問題点を複眼的視点から解決し、技術者として自主的に取り組むチャレンジ性を身に付けること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/threepolicies_07-AE_20230417.pdf　）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、総合基盤科目、コミュニケーション科目、実験研究科目、専門基盤科目、電気通信系科目、制御情報系科目、共同教育科目等を入学時から修了までバランスよく解説している。D1 は、主にコミュニケーション科目で身に付ける。D2 は、主に専門基盤科目で身に付ける。D3 は、専門基盤科目、電子通信系科目、情報制御系科目で身に付ける。D4 は、主に総合基盤科目、共同教育で身に付ける。D5 は、総合基盤科目で身に付ける。D6 は、主に実験研究科目で身に付ける。D2～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D1、D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単

位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
修了認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

電子情報システム工学専攻のカリキュラム

(1)カリキュラムの特徴

電子情報システム工学専攻は、電子情報技術及び応用技術の高度化・グローバル化に対応して、電子情報系の専門知識・技術とコミュニケーション力を身に付け、複合領域にも対応できる幅広い視野と柔軟な創造力を備え、かつ健全な精神を持った広く産業の発展に貢献し、国際的にも活躍できる技術者の育成を目指すバランスの取れたカリキュラムである。

(2) 専門知識の習得

電子・情報・制御系の基礎となる「ディジタル電子回路学」や「データサイエンス」などの専門基盤群を配置し、その応用選択科目群として「集積回路工学」や「マルチメディア工学」などの電子通信系科目群と「ロボット工学特論」などの制御情報系科目群を設けている。さらに、エンジニアリングデザインの素養を身に付け、創造性を育むデザイン能力育成科目として「創成技術デザイン実習Ⅰ、 Ⅱ」、最新の AI、ICT 技術に対応するために「知能情報処理」や「情報セキュリティ特論」などの科目を学ぶ。

(3) 専門技能の習得

ものづくりを通して創造性・デザイン力・チームワーク力を養う。新しい商品や技術の開発には、創造力と実現力が欠かせない。「創成技術デザイン実習Ⅰ、 Ⅱ」では、問題発見・課題探求から解決のためのアイデア創出、制約の下での企画や行程計画など、エンジニアリングデザインについての基本を理解し、グループワークによる実践実習を行う。自ら設計を行い実際に「もの」を製作する中で、部品の選定、工作・加工、途中で生じる問題をいかに解決するかを学ぶ。これらの経験を通して、「ものづくり」に関する一連の流れ、様々な要素技術、知識を習得する。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

解が一つでない問題に対する論理的な思考・発想及び分析の手法を理解し、問題の分析、課題の理解、発想の提案を実際の身近な問題に応用できることを目指す。制約のある具体的な問題について、調査・課題探究・アイデア発想・計画立案・試作など解決のための一連のデザインプロセスをチームで効率的に実践できるようなカリキュラムである。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/04/threepolicies_07-AE_20230417.pdf ）

（概要）

専攻科のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

技術の向上や新しいものの創造に対する意欲を持っている人
科学技術の基礎知識及び専門分野の基礎的な知識と技術を持っている人
日本語及び英語の基本的コミュニケーション能力が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び社会人特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本校専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜

本専攻科での勉学に必要な素養と基礎学力及び専門基礎知識を備えた人を選抜する。

社会人特別選抜

企業等での１年以上の実務経験があって、専門分野における基礎的な学力と知識を持ち、本専攻科での学習の意欲があり人物的にも優れていると所属の長が推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定により行う。

学力選抜

学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記検査で、英語、数学及び専門科目とする。

社会人特別選抜

社会人特別選抜は、所属の長から提出された推薦書、調査書及び志望理由書と面接の総合判定により行う。

学部等名　専攻科生産システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_08-AP_20230120.pdf　　）

（概要）

生産システム工学専攻は、準学士課程における機械知能系・建築社会デザイン系・生物化学系のいずれかの複合型専門を基礎としてモノづくりの基盤をデザインし、これを展開して国際的な視点に立ったイノベーション創成を担うことのできる高度な開発技術者及び地域産業の発展に貢献できる技術者の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_08-AP_20230120.pdf　　）

（概要）

生産システム工学専攻では、「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成」を理念として、本校が掲げる育成する人材像（学士課）及び専攻の教育上の目的に基づき、技術者に必要な資質や能力を以下に定める。このような人材の育成を図るため、総合基盤科目、融合・複合系基礎科目、融合・複合系専門科目を適切に配置し、在学中にこれらの資質や能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

（Ｄ１）日本語及び英語のコミュニケーション能力、さらに国際的に活躍できる能力を身に付ける
1-1：日本語における適切な文章表現及び口頭の意思伝達ができること
1-2：英語で書かれた技術文書の概要・要旨がつかめること
1-3：研究の英文概要を書くことができ、発表資料などに英語を用いることができること

（Ｄ２）ICT に関する基本的技術及び工学への応用技術を身に付ける
2-1：ICT 技術を活用した計測技術を使い実験データを収集することができること
2-2：収集したデータや情報を数理的処理を用いて分析し、専門工学での問題解決に繋げることができること

（Ｄ３）多分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する高度な知識と能力、さらに複眼的な視点から問題を解決し、産業技術分野への活用を実践できる能力を身に付ける
3-1：数学・自然科学の基礎知識を、専門分野の課題で活用することができること
3-2：多様な専門分野の関連性を理解し、多面的に捉えることができること
3-3：基礎知識を活用して工学的問題を理解し、説明できること
3-4：基礎的な実験技術を用いて、実験を企画・実行して結果の分析・評価ができること

（Ｄ４）知徳体の調和した人間性及び社会性・協調性を身に付ける
4-1：幅広い知識を身に付け、地球的視点から問題を捉えることができること
4-2：異文化を理解し、価値観の多様性を認識することができること
4-3：社会参加への意欲と関心をもつことができること
4-4：グループでの活動に参加し、他のメンバーと協調して課題に取り組むことができること

（Ｄ５）広い視野と技術のあり方に対する倫理観、さらに社会への貢献意識を身に付ける
5-1：科学技術に関する倫理的問題について理解し、指摘することができること
5-2：実務上の問題を理解し、技術的・倫理的知識を適用することができること

（Ｄ６）知的探求心を持ち、問題解決へ向けて主体的、創造的に取り組む能力を身に付ける
6-1：好奇心と探求心を持って、幅広い分野の課題に取り組むことができること
6-2：得意とする専門分野の知識、技術と情報を駆使して、社会の要求に応じた問題解決の方法を企画、デザインすることができること

6-3：研究や学習状況を把握・記録して自主的・継続的に学習できること

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_08-AP_20230120.pdf　　）

（概要）

ディプロマ・ポリシーで示した資質や能力 D1～D6 を身に付けるために、総合基盤、コミュニケーション、自然科学、基礎工学、実験研究の科目群からなる共通の必修科目、機械工学と電気電子工学を融合した機械知能系、建築学と土木工学を融合した建築・土木系、生物工学と応用化学を融合した生物・化学系のそれぞれの専門分野に属する複合型専門選択科目、ICT 系や共同教育の科目群からなる選択科目を開設している。D1 は、主に実験研究科目及び外国語系科目で身に付ける。D2 は、主に情報系科目及び実験研究科目で身に付ける。D3 は、自然科学系科目、基礎工学系科目及び各分野の専門選択科目で身に付ける。D4 は、主に総合基盤科目、共同教育で身に付ける。D5 は、総合基盤の人文・社会系科目で身に付ける。D6 は、主に各分野の専門科目や実験研究で身に付ける。D1～D3 及び D5 は、主に講義形式で行なわれ、定期試験や課題評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。D4 及び D6 は、主に製作物や発表、レポート、取り組みへの評価等の総合評価が合格点以上となることで単位認定される。いずれも主たる科目は、必修科目として開設されている。
修了認定を受けるためには、全ての必修科目を修得するとともに、必修科目及び選択科目の修得単位数の合計が、それぞれ規定単位数以上であることが必要であり、バランスの取れた修得を課すカリキュラムとなっている。

生産システム工学専攻のカリキュラム

(1) カリキュラムの特徴
生産システム工学専攻は、複眼的な視点から技術を理解し、実践の場において、地域・社会のニーズに応え、アイデアを実現できる能力を備えた実践的高度技術者の育成を目的とする。そのために総合基盤、コミュニケーション、自然科学、基礎工学を学ぶ科目群による共通の必修科目を中心として、機械知能系、建築・土木系、生物・化学系のそれぞれの専門分野に属する専門工学を選択科目として配置することにより、専門性の確立と複眼的視野の獲得を目指すバランスの取れたカリキュラムである。

(2) 専門知識の習得
自然科学系科目として「応用解析」、「物理化学」など、情報技術科目として「応用情報科学」、「データマイニング概論」など、基礎工学科目として「計算応用力学」、「複合材料工学」など、さらには、専門領域の実践力を深めるために、機械工学・電気電子工学、建築学・土木工学、生物工学・応用化学の六つの専門分野に関係する多様な専門選択科目を学ぶ。

(3) 専門技能の習得
「生産システム工学実験」では、機械、電気電子、土木、建築、生物、応用化学の６分野から自ら専門とする複合工学に関する実験とその他の分野の実験を横断的に行うことにより、モノづくりの現場で必要となる専門分野に跨った各種計測技術と応用力の習得を目指す。また、それぞれの専門分野における解析、設計、分析等の実務で必

要な実践的技術やプログラミング、情報通信等のICT関連技術について学ぶ。

(4) 問題発見・解決力、課題設定・達成力、協働力などの習得

１年「エンジニア実践学」では、エンジニアリングの実践・実際に触れ、社会の要求に応えることの意義も含めた広い意味の実践力や問題発見・解決力を養い、１年「創成実践技術」、２年「生産デザイン論」では、得意とする専門分野の知識や技術を活かしながら創成能力やエンジニアリングデザイン能力を習得し、１年特別研究Ⅰ、２年特別研究Ⅱで段階的にこれらの能力をさらに高いレベルまで育てる複合工学における高度実践的技術力を養成するカリキュラムとなっている。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/01/threepolicies_08-AP_20230120.pdf　　）

（概要）

専攻科のアドミッション・ポリシー

本校が求める入学者は、教育課程において学生が育むべき基礎的な知識・技能、これらを活用して自ら考え判断し表現する力、学習に取り組む意欲と、入学後にディプロマ・ポリシーで掲げる技術者に必要な資質や能力を身に付けるための基盤として、次のとおりとする。求める学生像に示された意欲、学力及び適性を有する者を、以下の選抜方法により確認し、受け入れる。

求める学生像

技術の向上や新しいものの創造に対する意欲を持っている人
科学技術の基礎知識及び専門分野の基礎的な知識と技術を持っている人
日本語及び英語の基本的コミュニケーション能力が備わっている人
社会への貢献意識を持っている人

入学者選抜の基本方針

入学者の選抜は、推薦選抜、学力選抜及び社会人特別選抜の三つの方法で行う。

推薦選抜

在籍する学校長が人物・学業ともに優れていると認めて推薦する人で、本校専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

学力選抜

本専攻科での勉学に必要な素養と基礎学力及び専門基礎知識を備えた人を選抜する。

社会人特別選抜

企業等での１年以上の実務経験があって、専門分野における基礎的な学力と知識を持ち、本専攻科での学習の意欲があり人物的にも優れていると所属の長が推薦する人で、本専攻科への適性を有し、合格した場合は必ず入学する人を選抜する。

選抜方法　　検査内容及び判定方法

推薦選抜

推薦選抜は、在籍する学校長から提出された推薦書及び調査書と面接の総合判定に

より行う。
学力選抜
学力選抜は、学力検査の成績及び出身学校長より提出された調査書の総合判定により行う。学力検査は筆記検査で、英語、数学及び専門科目とする。
社会人特別選抜
社会人特別選抜は、所属の長から提出された推薦書、調査書及び志望理由書と面接の総合判定により行う。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3人	－					3人
共通教育科	－	13人	14人	2人	2人	1人	32人
情報通信エレクトロニクス工学科	－	6人	4人	1人	0人	0人	11人
制御情報システム工学科	－	6人	3人	1人	0人	0人	10人
人間情報システム工学科	－	6人	4人	0人	0人	2人	12人
機械知能システム工学科	－	6人	2人	1人	1人	0人	10人
建築社会デザイン工学科		2人	4人	0人	3人	0人	9人
生物化学システム工学科	－	3人	6人	1人	0人	0人	10人
専攻科	－	4人	2人	1人	0人	0人	7人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	39人	39人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：本校の公式HP上に公表(学校案内→学校紹介→教員紹介) https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
情報通信エレクトロニクス工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	212 人	106.0%	人	2 人
制御情報システム工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	212 人	106.0%	若干名	1 人
人間情報システム工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	215 人	107.5%		1 人
機械知能システム工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	218 人	109.0%		0 人
建築社会デザイン工学科	40 人	43 人	107.5%	200 人	212 人	106.0%		0 人
生物化学システム工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	208 人	104.0%		0 人
合計	240 人	254 人	105.8%	1200 人	1277 人	106.4%	人	4 人
専攻科電子情報システム工学専攻	24 人	31 人	129.2%	48 人	61 人	127.1%	0 人	0 人
専攻科生産システム工学専攻	24 人	29 人	120.8%	48 人	61 人	127.1%	0 人	0 人
合計	48 人	60 人	125.0%	96 人	122 人	127.1%	0 人	0 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
情報通信エレクトロニクス工学科	44 人 (100%)	20 人 (45.5%)	23 人 (52.3%)	1 人 (2.3%)
制御情報システム工学科	44 人 (100%)	18 人 (40.9%)	25 人 (56.8%)	1 人 (2.3%)
人間情報システム工学科	38 人 (100%)	15 人 (39.5%)	22 人 (57.9%)	1 人 (2.6%)
機械知能システム工学科	37 人 (100%)	21 人 (56.8%)	16 人 (43.2%)	0 人 (0.0%)
建築社会デザイン工学科	43 人 (100%)	18 人 (41.9%)	23 人 (53.5%)	2 人 (4.7%)
生物化学システム工学科	39 人 (100%)	19 人 (48.7%)	20 人 (51.3%)	0 人 (0.0%)
専攻科電子情報システム工学専攻	27 人 (100%)	7 人 (25.9%)	20 人 (74.1%)	0 人 (0.0%)
専攻科生産システム工学専攻	33 人 (100%)	4 人 (12.1%)	28 人 (84.8%)	1 人 (3.0%)
合計	305 人 (100%)	122 人 (40.0%)	177 人 (58.0%)	6 人 (2.0%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

（備考）

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

高専機構統一の Web シラバスを利用しており、シラバスには、授業科目、授業方法（講義、演習、実験、実習の別）、授業概要、年間スケジュールについて記載している。

シラバスの作成については、教務委員会を通じて、前年度の 12 月の時期に、各科目担当教員に依頼している。なお、非常勤教員については、担当のホストプロフェッサー（サポート教員）を介して依頼している。

各担当教員のシラバスが作成された段階で、シラバスの内容等の相互チェック、教務委員による点検を実施している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

本科の学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準は、「熊本高等専門学校学業成績評価並びに進級及び卒業の認定等に関する規則」に規定している。
また、専攻科においては、「熊本高等専門学校専攻科電子情報システム工学専攻における授業科目の履修等に関する規則」及び「熊本高等専門学校専攻科生産システム工学専攻における授業科目の履修等に関する規則」に規定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
	情報通信エレクトロニクス工学科	167 単位	有・無	単位
	制御情報システム工学科	167 単位	有・無	単位
	人間情報システム工学科	167 単位	有・無	単位
	機械知能システム工学科	167 単位	有・無	単位
	建築社会デザイン工学科	167 単位	有・無	単位
	生物化学システム工学科	167 単位	有・無	単位
	専攻科電子情報システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	専攻科生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位

ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本校のＨＰ上に公表
https://kumamoto-nct.ac.jp/general/school/facilities.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	情報通信エレクトロニクス工学科	234、600 円	84、600 円	70,660～176,700 円	制服代 約 50,000 円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 15,0000 円～46,000 円 学生教育研究災害障害保険料 （5 年分）4,050 円 [以下、寮生のみ] 寄宿料 8,400 円～9,600 円 寮費 60,000 円（電気料別） 寮生会費 5,500 円
	制御情報システム工学科	234、600 円	84、600 円	70, 600～176,700 円	
	人間情報システム工学科	234、600 円	84、600 円	70,600～176,700 円	
	機械知能システム工学科	234、600 円	84、600 円	75,600～172,000 円	制服代 約 50,000 円 スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円、学研災保険料（5 年分）4,050 円 教科書代 20,000 円～30,000 円 [以下、寮生のみ] 寄宿料 8,400 円～9,600 円、 寮費 76,800 円（寮生会費、電気等使用料込）
	建築社会デザイン工学科	234、600 円	84、600 円	75,600～172,000 円	
	生物化学システム工学科	234、600 円	84、600 円	75,600～172,000 円	
	専攻科電子情報システム工学専攻	234、600 円	84、600 円	17,300～118,400 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教科書代 14,000 円～40,000 円 学生教育研究災害障害保険料（2 年分）1,750 円 [以下、寮生のみ] 寄宿料 8,400 円～9,600 円 寮費 60,000 円（電気料別） 寮生会費 5,500 円
	専攻科生産システム工学専攻	234、600 円	84、600 円	10,300～104,700 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円、 教科書代 7,000 円～15,000 円 学研災保険料（2 年分）1,750 円 [以下、寮生のみ] 寄宿料 8,400 円～9,600 円、 寮費 76,800 円（寮生会費、電気等使用料含）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 学生の修学に係る支援については、以下のとおり取り扱っている。 奨学制度：日本学生支援機構による奨学金、奨学のための給付金 授業料免除：高等学校就学支援金（本科 1～3 年対象）、授業料免除（本科 4・5 年生、専攻科生）
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア教育支援室を設置し、組織的、体系的なキャリア教育及び進路選択支援を行っている。キャリア教育については、HR などを利用したキャリア教育、卒業生等による講演会、学外研修、企業等の協力によるキャリアセミナー等を実施している。 また、進学・就職に係る進路選択に際しては、担任を中心とした所属学科による支援のほか、カウンセラー等の外部人材を活用した支援体制を構築している。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生支援室を設置し、教職員及び外部カウンセラー等を室員として学生の心身の健康等に関する問題について対応する体制を構築している。また、スクール・ソーシャル・ワーカーを雇用し、必要な場合に相談、支援を受けることができる体制をとっている。 学生の心身の健康等に関する重要な問題が生じた場合には、学生支援連絡協議会（学生主事、教務主事、寮務主事、学生支援室長等）において検討、対応を図ることとしている。 また、学生委員会を中心に心身の健康等に関する学生向け研修会を実施している。教職員向けの研修会等についても、学生委員会、学生支援室などの主催で実施し、学生支援に関する情報、知見の共有を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本校のＨＰ上に公表 https://kumamoto-nct.ac.jp/general/openinfo/disclosure.html